

シンポジウム

あらためて

SBS/AHT仮説を問う

医学と司法のはざまで

生まれつづけるえん罪

2025年10月25日(土)

13時～17時30分(予定)

対面のみ

無料
要申込

SBS/AHT仮説を検証し、SBS/AHT事件における誤判・えん罪事例を正すためにSBS検証プロジェクトを設立してから8年が経過しました。この間にSBS/AHT仮説が問題となる事例においては無罪判決が相次ぎ、仮説の見直しの必要性についても認識が高まりました。

しかし、SBS/AHT仮説に対する真摯な検証は、刑事司法の中でも医学界においても行われていません。とくに内因性疾患により「三徴候」類似の症状を呈することについての認識は高まっておらず、「外力ありき」の発想に立った医師の意見に依拠して、この類のケースの訴追がつづいています。

このような状況において、あらためてEBM（根拠に基づく医療）の観点からこの問題について振り返り、問題提起を行うために、本シンポジウムを企画しました。

会場

ビジョンセンター東京駅前 705号室
東京都中央区八重洲1-8-17 新槇町ビル7階

お申し込み/お問合せ

<https://forms.gle/6ntJtKxEx3YTp4kT7>



プログラム

- ◆本シンポジウムの趣旨
笹倉香奈（刑事法学）
- ◆基調講演 SBS/AHT問題の現在地
エヴァン・マッシュズ医師
(Dr. Evan Matshes, 米国法医学)
- ◆事件報告
山内事件 高山巖（弁護士）
赤阪事件 川上博之（弁護士）
今西事件 秋田真志（弁護士）
- ◆報告 医師に対するアンケートより
徳永光（法学）
- ◆対談 SBS問題の課題
青木信彦医師（脳外科） × 秋田真志
- ◆パネル・ディスカッション
松野彰医師（脳外科）
小保内俊雅医師（病理学）
君和田友美医師（脳外科）
司会：川上博之・宇野裕明（弁護士）
- ◆総合司会 増井俊輔（弁護士）



共催：SBS検証プロジェクト 一般財団法人イノセンス・プロジェクト・ジャパン (IPJ)
IPJ学生ボランティア 龍谷大学矯正・保護総合センター JSPS科研費 JP23K01152